



9月の保健だより

令和3年8月31日

宮古島市立東保育所

病後児保育室（72-2089）

担当看護師 竹岡

まだまだ残暑が続きます。元気に過ごしてきた子ども達も夏の疲れが出やすい時期です。この時期は体調を崩しやすくいろんな症状が現れます。発熱・下痢・おう吐の症状や、皮膚のトラブル、結膜炎など様々です。夏に乱れた生活リズムを見直したり、バランスがとれた食事など、できることから取り組んでみましょう。症状が出たら早めに病院に行き適切な治療を受ける事をお勧めいたします。



伝染性膿痂疹（とびひ）

かゆみのある湿疹は「とびひ」かも・・・

とびひは、夏の疲れが出る8月終わりから9月ごろに多くなります。

「傷がじゅくじゅくしている」「なかなか傷が治らない」というのが始まりのサイン。やがてかゆみの強い水疱ができます。しかし、痒いからといってひっかくと大変！破れて中の液が付いた所にどんどん広がっていきます。

原因：虫刺されや湿疹を掻きむしった跡に黄色ブドウ球菌などが感染して起こる。
皮膚が弱いとかかりやすい。

症状：皮膚に水ぶくれができ、破れて赤くむけたような状態になる。
強い痒みがあり、時には発熱することもある。



治療：抗生物質の使用

家庭での手当

- お風呂では湯船に浸からず、シャワーで洗い流して清潔を保つ。
- 湯上がりはこすらず拭き取る。
- じゅくじゅくした部分は皮膚科で処方された薬があれば塗ってから、ガーゼで覆う。
- 清潔な服を着る。



注意点：同じプールに入ったからといって、水を介してうつることはありませんが、傷がふやけたりすることで症状を悪化させたり、接触することで他の人にうつす可能性もあるため、患部がじゅくじゅくしている時は、プールは避ける。
爪は短く切る。



登園する際は、じゅくじゅくしている傷はガーゼで覆ってから登園するようにしましょう。

ひどくなると治りにくくなるため、早めに皮膚科へ受診しましょう。
患部が乾燥したらうつる心配はありません。